



読者からの声

石川医報の「読者からの声」は、会員がいろいろな意見を交換する場です。
ぜひ、皆様からのご意見、ご投稿をお待ちしております。
(編集部より)

女性医師の窓

母親医師としての人生の選択

金沢大学附属病院呼吸器内科
早稲田 優子

敬老の日に、

「ぼく、お母さんを大事にするよ！だって、お父さんより年寄りだもん。お年寄りは大切にしないとイケないって言われたし。」

と私に言っていた息子も春には小学校3年生になります。

医師免許をもらってもうすぐ16年目になりますが、その間いくつも医者としての人生の選択がありました。自分が見ている患者さんは“変化なし”は最高ですが、自分の人生に“変化なし”はあり得ません。

一番の大きな選択は、息子が生まれ仕事に復帰した後でした。最初は子育ては全部母親である自分がしなければならないと思っていたので、何もかも自分でやりました。反面、仕事もどんどんやりたいことが増えていく…その中で保育園のお迎えが遅くなり、寝かしつけも遅くなり、朝も起きられない…という生活に悲鳴をあげたのは他の誰でもない、息子でした。

私の仕事がこれまで以上に責任が伴うようになった時と息子の保育園が代わったときが不幸にも重なってしまい、息子から笑顔が消えたのです。

私の感じたショックは、今でも当時を思い出すと涙が出てくることからご想像いただけたと思いますが、初めて大好きな仕事をやめようかと悩むこととなりました。まず自分に問いかけたのは、これまで自分のすべてを捧げてきた仕事を簡単にやめることができるのか、ということでした。答えはNOです。もちろん仕事より息子が大事なのは間違いありません。でも、私が仕事をやめて解決する問題なのか、そう思いました。私は母親でもあり、医者でもあります。息子を一人の人間として育てて行く責任はもちろんありますが、たくさんの患者さんを診る責任だってあります。医者ってそのくらい人生をかけていい仕事なんじゃないの？と心が叫んでいました。

そしたら答えは簡単です。義両親、実両親に頭を下げ、息子に当たり前の生活を送らせてあげるために、どうしても手を貸して欲しいとお願いしました。

それからはみるみる息子は元気になり、私自身の生活にもこれまでより少し余裕ができたので空いた時間は息子とゆっくり向き合うことができ、結果としてそれまで以上に息子といい時間を過ごせる様になりました。

心に余裕ができたならさらに仕事に打ち込めるようになり、とある厚労省研究班にお誘いいただいたのをきっかけに2012年のアメリカでの学会に参加したこと、そこで得たいろんな先生とのつながりから一気に人生が広がったと実感しています。2013年はそのつながりが仕事のつながりにも発展し、そして本年4月より主人のウィーン留学をきっかけに家族でついていくことを選択し、私も医者として一緒に勉強して来ようと考えております。

そういう選択を行えたのも、あの日、医者としての自分をやめなかったからだと心から思っています。

子育てしながら医者をすることは並大抵のことではありません。病院では一日全力で医療を行い、自宅に帰ったら全力で育児や家事をする、体が2つないと無理だなど思うこともありますが、それでもやっていけるのは、息子が大好きだから、そして仕事が好きだからだと思います。

これからさらに人生の選択は増えていくことと思います。基本的に大きく変化する方を選択する、というスタンスは変わらないと思いますが、自分の人生に家族と一緒にどんな色をつけていくことが出来るのか、そして息子の人生にどんな色がついていくのか今から楽しみです。

とりあえずは息子に有言実行、お年寄りを大事にしてもらいましょうか！

平成26年 アレルギーキャンペーン

※新規取扱い検査
VIEWアレルギー36
期間中、
特別価格にて
ご提供！

実施期間
2月1日～5月31日
対象項目 **CAP-RAST**

※2014年2月1日現在、
保険点数110点の項目



※特別価格にてご提供させていただきます。

【登録衛生検査所】

公益社団法人 石川県医師会臨床検査センター

TEL 076-239-3830 Fax 076-239-3831